

2014 vol.196 APR

SOUSAKU

創作手工芸



公益財団法人日本手工芸作家連合会

●公益財団法人認証後1年を迎えて 公益財団法人日本手工芸作家連合会 会長 花村 邦 昭



当会は公益財団法人の認証を得て一年が経過しました。この間、東京都美術館における定例の「創作手工芸展」をはじめ各種「講習会」の開催などさまざまな活動を精力的に行って参りました。お蔭様で、25年度決算ではどうにか収支トントンの当初目標を達成することができました。この間、協賛協力企業をはじめ会員の皆様より賜りました絶大なご協力とご支援に対しまして衷心より厚く御礼を申し上げます。特に「創作手工芸展」に際してのチャリティでは多くの会員の皆さんからたくさんの作品をご寄贈いただきました。売り上げの一部は東日本大震災の津波遺児への育英奨学金として「あしなが育英会」に寄付させて頂きました。ここに改めてご関係の皆様にご心より感謝を申し上げます。

ただ残念なのは当初目論んでおりました会員の大幅増強が思うように進捗しなかったことでもあります。当会のさらなる発展のためには会員の着実な増強が不可欠であります。本部におきましても、最大限の努力は行って参りますので、どうか会員の皆様

におかれましても会員増強の面で引き続きご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

最近、全国的に手工芸文化の見直しが進んで来ているように窺えます。画一的な規格品の機械的大量生産を専らとする時代から、個性的な手づくりの味わいが尊重される時代への回帰現象と言ってもよいでしょう。これはインターネットの普及で手づくりのホームページやブログ、ツイッターなどが誰にでも簡単に手掛けられるようになってきた時代の反映でもありましょか。そういえば男女を問わず、最近の街行く人々の装いや化粧・服飾などの個性的な輝きはどうでしょう、一昔前のそれとは比べものになりません。この傾向は今後さらにいちだんと多様・多彩な展開を見せるものと思われます。

今日まで日本のモノづくり文化を根底で支えてきたのは、全国津々浦々に伝統的に根付いてきた手工芸文化であります。その淵源を遡れば多分、わが国中世の「座」・「結」・「講」などの結社に集った工人・職人・匠たちの仕事に行き着くこととなりましょ。それが近世の町人・庶民文化によってさらに磨きを掛けられ洗練の度を加えられて、我々の日常生活の隅々に今日まで連綿と受け継がれる文化遺産となったのであります。

わが国独自のこの文化的伝統は世界に誇るべきものであると同時に、日本が世界に向けてこれからも発信し続けていかねばならぬ高貴な使命でもあろうと思ひます。われわれ「日本手工芸作家連合会」が公益財団法人の認証を受けましたのもその証でありますし、改めてその責任の重さと同時に、大きなやり甲斐を感じる所以であります。

そんな本会会員の皆様のいっそうのご健勝とさらなるご精進を心より祈念いたします。

審査委員長 大矢 紀



第46回創作手工芸展は公益財団法人に認定された第1回の記念すべき展覧会となりました。それだけに、出品者の皆さんも例年になく一段と熱の入った作品を出品され、審査する側の先生方も最終審査が終わるまで気の抜けないような雰囲気でした。

文部科学大臣賞は、各審査員による厳正な審査の結果、審査員全員一致で池田節子さん出品の「桜重」が選ばれました。桜染の「さくら色」は、花を咲かせる直前の樹が一番美しい色を出すとされています。その染色を使った媒染剤による糸の染分け、織における糸の精密・浮き・遊び・異なる織幅の布の重なり、それらが一体となって空間に表情をもつ作品に仕上げられました。(小笠原 小枝)

東京都議会議長賞は佐久間恭子さん出品の「さざなみ」が選ばれました。緯糸に絹の裂き布とウール糸を交互に織り、ウールが縮絨する効果をさざなみに見立てています。金属線とウール素材でコントラストをつけた幾何形のドレスは、海神の舞台を想像させます。(石井 とめ子)

大妻コタカ賞は池田ちゑさん出品の遊佐刺し子「鳥海山への祈り」に決定いたしました。「遊佐刺し子」の一針一針の中に、命への祈りが込められています。薪を櫓(そり)に乗せて麓に下ろす作業の安全への願いと、聖なる山への信仰が、手と心によって映し出されています。(鶴岡 真弓)

日本手工芸作家連合会会長賞はブラックワーク刺繍の手塚慶子さんが出品された「六瓢息災(無病息災)」が選ばれました。瓢箪棚と土坡を対照的に斜めに配置し、縫いとレースの重ねの技法が斬新です。瓢箪を茶色にしたことで枯淡の味わいが出ており、審美的緊張感が表現の隅々

にまで行き届いています。

(花村 邦明)

審査委員長賞は松本由伎子さん出品の「花いくさ」が選ばれました。四つの帽子がそれぞれ個性を感じさせ、どのような女性がかぶるのかいろいろな思いをいだかせます。赤、黒、白、ベージュ四色の花が美しく作者の素晴らしい感性に敬意を表したいと思います。(大矢 紀)

奨励賞は大谷洋子さん出品の「ぬくもりをつなぐ」が選ばれました。華やかな晴れ着とお父さんの着物が家族の強い絆を感じさせます。

もう一点の奨励賞は北村亜土さん出品の「たおやかに希う」が選ばれました。一見、本物の盆栽と思わせるような作品です。

新人賞は石渡明代さん出品の「黒留袖」と草間久江さん出品の「ある夏の日」が選ばれました。黒留袖「桐」は静寂な雰囲気を醸し出した漆黒の地に、古来より吉祥として用いられた桐唐草文様が的確な配置で刺繍されています。きりっとした気品を感じさせてくれる秀作です。ある夏の日は夏の強い陽射しを受け、草花が光り輝く様子を多彩な色糸で精魂込めて一針一針飾縫いされ、確りとした技術の高さが実感できます。色鮮やかな花々を遠近法で奥行きをだし、芝生の間によって更に花々を強調させる構図となった力作です。(田口 義明)

特別賞は七点ですが、その内、土門コトさん出品の「さえずり」は二羽の架空の鳥と花々が美しく組み合わせられた作品です。

佳作に選ばれた二点の作品の内、斎藤美紀子さん出品の「集いの日のために」は遊佐刺し子とキルトで繋ぐタペストリーで、豊かさや繁栄を華やかに演出している作品です。

この他、入選作品の中にも受賞作と対峙する作品も数多く見受けられ、その差はまさに紙一重と言っても過言ではありません。自分自身との戦いの中で花に花どきがあるように自身の生きている一刻の花どきを美しく創作したいものです。

(日本美術院同人)



文部科学大臣賞
「桜重」
池田節子

この度は文部科学大臣賞を賜り誠にありがとうございました。この作品「桜重」は、長年勤務している学園内の大島桜の枝から、色素を抽出して糸に染め織り上げました。春に大地から力強く優雅に咲く、桜をイメージしてグレーやピンクのグラデーションに媒染した色で統一しました。織り技法は、模紗織りの変化組織で布に透明感と重厚さを表現しました。また、展示は三枚の布を立体的に配置して、布の重なりによる模様の見え方も意識しました。

今後も、更に精進を重ねて参りたいと思います。最後に日本手工芸作家連合会のご発展と、先生方や皆様のご健康をお祈り申し上げます。



東京都議会議長賞
「想・さざなみ」
佐久間 恭子



大妻コタカ賞
「鳥海山への祈り」
池田 ちゑ



日本手芸作家連合会会長賞
「六瓢息災(無病息災)」
手塚 慶子



審査委員長賞
「花いくさ」
松本 由伎子



奨励賞
「ぬくもりをつなぐ」
大谷 洋子

奨励賞
「たおやかに希う」
北村 亜土



佳作
「こもれば」
大 浜 詩 子
小 林 和 子
高 橋 時 子
柴 村 トシエ
保 田 千恵子
原 田 泰 子

佳作
「集いの日のために」
齋 藤 美紀子



新人賞「黒留袖(桐)」石渡 明代

この度は新人賞を賜り誠にありがとうございました。絹糸の織りなす彩に魅せられ、ただただ日本刺繍が好きで一針一針作ったものでございます。

今回の作品は自分自身の黒留袖の制作に取り組みオリジナリティーを重視し色彩、図柄において極力シンプルでなおかつ格調と品格のある蒔絵風の仕上がりを目指しました。

これからも、この賞を励みに日本刺繍を楽しんでまいりたいと思っております。

新人賞「ある夏の日」草間 久江

この度は思いもよらず新人賞を戴きありがとうございました。作品の制作にあたり私一人ではなく、熱心にご指導下さいました先生に心より感謝申し上げます。

又学んだ経験を活かしより良い作品を作りたいと思っております。



●「いのちの声を聴き、育てる手工芸」の未来へ

多摩美術大学・芸術人類学研・所長/教授 鶴岡 真弓



2013年度の「日本手工芸作家連合会」の公募作品には、現在の日本を勇気づける作品が数多く寄せられました。いずれの作品にも戦後から今日までの数十年の間、日本人が忘れていた「心と手」から生み出す「手工芸の原点」

を力強く問いかけるメッセージが込められていたということです。

自然と人間の関係をあらためて見つめてみると、現代における私たちの手工芸の役割の大きさに突きあたります。古来、野山や海の自然の精霊たちは、人間にその利用をゆるしてきてくれました。そして人間もある時期までは常に感謝を忘れずに様々な供養や祭礼をおこなってきました。しかしある時期から私たちは自然からたくさんの恵みを受けたことを忘れ、自然の「声」を聴くことを忘れたようです。2011年3月に発生した大震災による人災は人間を育ててくれた「自然そのもののいのち」を疲弊させてしまったのです。しかしこの未曾有の出来ごとは、日本人の意識をおおきく変えたことはいまでもありません。

手を動かしたものづくりをする人々は昔からわかっていたことですが、自然の「声」を聴くこととは、単に耳で聴くことに限るのではなく、もともと英語の「hear/聴く」という語でも「注意を払う」「見守る」「聴いて知る」という意味があります。鶯や雲雀の声を聴くということだけでなく、野に萌え出るツクシや、庭の蠟梅のつぼみがふくらんでくる、オタマジャクシが田の水で跳ねている、そうした自然の呼吸、かそけき「いのちの音」を聴こうとする心をもっているということです。

いま冒頭で「2013年度の公募作品には、現在の日本を勇気づける作品が数多く寄せられた」と書きましたのは、とりわけ今回の作品には、人間が忘れていた「自然のいのちを聴く心」を深く表した優秀な作品がたくさんあったからです。「糸と針」による刺し子、刺繍、パッチワーク、「染織」による和装、洋装、インテリア、「漆」、「木工」、「金工」、「陶磁」、「紙」、「革」や新素材までに挑戦し、それを文様はパターン of 装飾をはじめ、具象・抽象の造形、画、人形、盆栽にいたるまでに表現し、いずれの作品もが、創り手自身が生きてきた人生の時空のみならず、生きてきた人々の感じ取って来た、「自然と人/物と人/人と人」との関係から浮かび上がる「いのちへの感謝」を深く浮き彫りにしています。

そもそも「手工芸」の「芸」という漢字は「くさかんむり」を字の上に載いているとおり、「人が、かがんで土に、木を植える様子」を表しています。そう、手工芸の一針一針、一打ち一打ちは、「いのちを植え、育て、咲かせる」といとなみなのです。

したがってそこに「装飾・文様」や「彩色」をほどこすことは、単なる余白の飾り付けではなく、大自然が花や鳥や日月を産ましめデザインして見せてくれるように、人の心と手によって生命を咲かせる行為なのです。そして「美」とは、何処かに「あらかじめ在るもの」ではなく、つねに心と手によって真新しく「誕生し育まれる」なにもものかなのです。

「日本手工芸作家連合会」の公募作品は、大自然と人間の生命力と、力強く向き合い、表現する気迫に満ちていると、私は感じてまいりました。皆さまが今後いっそう、日本と世界の未来に向けて、人間が「生きぬく」ことへ勇気をもたらす手工芸を育ててくださることを、心よりお祈りしております。

平成26年度 講習会のお知らせ（前期4月～10月）

開催日	講師名	テーマ	会場	時間
4/12	神山 康子	スモック刺繍と小箱	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
5/10	増田 栄子	おもてなしカービング	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
6/14	道家 絢子	編物ルームソックス	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
7/12	松本 志津美	ビーズ	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
9/13	本間 光都子	ハーダンガー刺繍	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
10/11	中嶋 留美子	飾り結び	京橋越前屋ビル	10:30～15:00

平成26年度 所属作家作品展他お知らせ（前期4月～10月）

講師名	内容	会場(所在地)	会期
リビエール	シューネアルバイテン	リトアニア共和国	平成26年5月
土門 玲子	遊佐刺し子	英国 ロンドン	5月14日～17日
土門 玲子	遊佐刺し子	庄内空港ギャラリー	6月1日～6日
山本 尋子	大岡越前祭参加(染)	神奈川県茅ヶ崎市民文化会館	4月26日～27日
平山 泰子	第22回創作手工芸梅支部(手工芸)	NHK福岡放送センター ギャラリー 2F	9月23日～28日
上田 佳子	サローネフランソワ フランス刺繍展示会	広島市中区本通アンデルセン6F コペンハーゲンルーム	5月15日～17日
松本 志津美	スモック刺繍	銀座清月堂画廊	5月27日～6月1日

- リビエール、土門教室では上記の他に公開レッスン、展示会等があります。ホームページをご覧ください。尚、会員の皆様の活動状況をお知らせしますので、事務局宛にご連絡をお願いします。
- 平山泰子、上田佳子、松本志津美は日本手工芸作家連合会の後援です。

会員だより

●ボランティア活動

2013年7月27日、埼玉県加須市にてちりめんウサギのおひな様の講習参加者70名。出来上がったおひな様は福島県双葉町より避難されている方々にお見舞いとしてプレゼントし、大変喜ばれました。(3年間継続)

九州地区
管原 美 東



●作品展

2014年2月19日から21日まで東京都大森文化の森会場で花水木教室の盆栽とおひな様の展示および講習会を開催。来訪者はおよそ200名を超え、大変好評のうちに終了しました。

東京都
道家 絢 子



資格取得へのおすすめ

●本連合会は、手工芸教育の普及発展を目的として手工芸指導者の養成教育として資格認定・免状授与を行っております。資格取得後は手工芸セミナーの指導者、社会教育における中学校・高等学校での指導者、生涯教育における指導者などの派遣を通してさまざまな手工芸分野で活動し、技術の向上に貢献しております。また、支部・教室で技術を習得することもできます。資格取得は生涯学習の宝です。

●資格免状取得者

資格名	資格者氏名	科目	資格名	資格者氏名	科目
講師	大串 愛子	フラワーデザイン	高等科	森島 栄子	フラワーデザイン
講師	足立 妙子	フラワーデザイン	高等科	水谷 いづみ	日本刺繍
講師	土門 コト	遊佐刺し子	普通科	森島 栄子	フラワーデザイン
講師	池田 ちゑ	遊佐刺し子	普通科	水谷 いづみ	日本刺繍
講師	杉田 眞由美	ハーダンガー			

●新入会員の紹介は次号 vol.197に掲載

事務局だより

●石井副会長 昨秋の叙勲で瑞宝小受賞をご受章

当連合会副会長の石井とめ子先生におかれましては、平成25年秋の叙勲にて瑞宝小受賞受賞の栄に浴されました。これは永年に亘り服飾文化史の発展に尽くしてこられたご功績の賜物であり、衷心よりお慶び申し上げます。

●第47回 創作手工芸展(公募展) 主催：公益財団法人日本手工芸作家連合会

会 期：平成26年11月8日(土)～11月15日(土)

会 場：東京都美術館 ギャラリーC

応募期間：平成26年7月初旬～10月中旬

出 品 料：会員 10,000円

一般 12,000円

学生 5,000円

●研修講演会のご案内

当連合会では、下記要領にて本年の研修講演会を開催いたします。開催時期は概ね秋ごろを予定しておりますが、詳細が固まり次第ホームページにて公開いたしますので、多数の皆様のご出席をお待ちいたしております。

記

テーマ：「手工芸創作者の感性と日本文化」

講 師：三和 正明氏(当連合会 理事)

会 場：東京都内を予定

開催日：秋期の予定

いずれも詳細確定次第、当連合会のホームページにてお知らせいたします。

●プチ情報

☆ 4月23日(水)～29日(火) 日本編物手芸協会展 丸善丸の内本店4F

☆ 4月24日(木)～26日(土) 第38回2014年ホビーショウ 東京ビッグサイト東展示棟

☆ 5月23日(金)～25日(日) 伝統工芸江戸木目込人形作品展 東京都立産業貿易センター5F

●次回発刊予定のご案内

次回発刊 SOUSAKU 197号(創作手工芸)は平成26年10月を予定しております

●表紙作品：池田 節子 「桜重」

(第46回創作手工芸展 文部科学大臣賞受賞)

発行日/2014年4月吉日
発 行/公益財団法人日本手工芸作家連合会
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-6-10
MOビル 407号室
TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-5140
E-mail:info@syukogei-sakka.or.jp
URL <http://www.syukogei-sakka.or.jp/>